

## セシウム汚染の新米 全国各地で確認 ～ 程度の差こそあれ、全国中の新米に汚染の可能性 ～

実りの秋が近づき、銀山地区の米も頭を垂れて色づき始めてきた。気温も急激に低下し、これからぐんぐん実入りが始まる季節を迎えた。何十年、何百年と続いた人と自然の営みだが今年はかなり様子が違っている。

各地で収穫が始まった新米から放射能が検出されているのだ。私がニュースで確認しただけでも九州・四国・茨城県に及んでいる。放射能拡散予測の画像をこの通信でも紹介したが、日本どころか北半球全域に福島第1原発の放射能は拡散している。当然、全国各地に拡散した放射能は生物濃縮作用を受けて、植物や動物の特定部位に高濃度に集まってくる。理論的には北海道だけが汚染を免れるなどということは不可能だ。東北・関東地方よりは「汚染レベルが低い」に過ぎない。

市場はそれを見越して、米の先物取引では古米の異常高騰が続いている。店頭でも新米より先に古米が売り切れてなくなっている状態だ。本来であれば子どもたちの健康を守るため、古米などは行政が買い取り学校給食に優先的にまわすなどの対策が取られるべきだ。しかし、政府の無策もあって、市場経済では自由競争のもと先物相場の投機対象にされてしまっている。

汚染レベルを数値できちんと発表している自治体はまだ良い方だ。「寝た子を起こすな」とばかり何もせず静観しているところも多いのではないかと。農協や自主流通米を扱っている業者は「程度の差こそあれ全て汚染されている」という前提に立って、消費者に数値をきちんと伝えるべきである。そのことが信用の第一歩だろう。その上で、消費者が選択できる環境を整え、損害については東電と政府が補償する体制の整備が必要だ。そうでなければ、高濃度汚染米などは闇ルートに流れ、外食産業などを通じて人体に入り込むことにつながりかねない。牛の肉ですらあつという間に売りさばかれ、全国に流通したことを考えれば、当然起こりうることだ。きちんとした補償制度がない状態では「正直者がバカを見る」とばかりに、危険なものほど早く売りさばかれることを忘れてはならない。

農水省は「暫定規制値（1キロあたり500ベクレル）を超えた地域のコメはすべて出荷停止」との方針を発表したが、そもそも「500ベクレル」という数値が国際的に見ても異常に高い数値だということをおさえる必要がある。

～ まずはニュースより～

### セシウム米調査：汚染米の全量廃棄は旧市町村単位で

農林水産省は3日、近く収穫期を迎えるコメについて、収穫の前後2段階で放射性セシウムを調査する方針を発表した。収穫後の本調査で暫定規制値(1キロあたり500ベクレル)を超えた地域のコメはすべて出荷停止として廃棄処分を義務づけ、農家の損害は東京電力に損害賠償請求する方針。他の食品より綿密な二重チェック体制で、主食であるコメの安全を確保したい考えだ。

～ 中略 ～

本調査で暫定規制値を超える所が1カ所でもあれば、政府は知事に出荷停止を指示する。市町村全域では広すぎる地域もあり、旧市町村単位(1950年当時)を原則とする。出荷停止地域で生産されたコメは自治体が全量を管理して廃棄処分する。説明会で農水省担当者は、土壌のセシウムの値が1キロあたり5000ベクレルを超えた福島県の一部地域は4月にコメの作付けを禁止しており、これ以外の地域のコメから暫定規制値を超えるセシウムが検出される可能性は低いとの認識を示した。

農水省が指定した調査対象地域は、福島▽茨城▽栃木▽群馬▽千葉▽神奈川▽宮城▽山形▽新潟▽長野▽埼玉▽東京▽山梨▽静岡一々の14都県。【佐々木洋、浅野翔太郎】

毎日新聞 2011年8月3日 21時43分

### 暫定基準値500ベクレルは安全の目安になるのか？

①日本人成人の1日あたりの食物摂取平均＝約1.4kg ②500ベクレル/kgのセシウム汚染 ③被曝線量係数＝0.013μSv/Bq これらの条件で1年あたりの放射線被曝量を計算するとどうなるか。

$500 \times 1.4 \times 0.013 \times 365 = 3321.5 \mu\text{Sv} \Rightarrow 3.3215\text{mSv} \Rightarrow$  一般人の年間許容線量 1mSv の3.3倍

1mSv は外部被曝線量を想定した基準値である。食品汚染は内部被曝を引き起こす。内部被曝の場合、1mSより遥かに微量でも影響がでると言われている。暫定基準値 500 ベクレル/kg は「食品安全神話」に過ぎない。

# 日本の規制値は安全の目安にないえるか？

下の表を見ていただきたい。(週間金曜日より) チェルノブイリ原発事故から25年たった今でも子どもの甲状腺がんなどの健康障害が多発しているベラルーシでは穀物汚染基準値を40Bqにしている。日本は十数倍の500(Bq/kg)に設定している。500(Bq/kg)に汚染された新米をあなたは買うだろうか？ ベラルーシでは、学校や公共機関に高性能な測定器が配備され、市民は自分で食品を持ち込み測定して判断している。根拠が希薄で不安を煽るだけの「暫定規制値」をかかげるより、**早急に食品汚染を測定できる機器を配備すべきである。**学校給食を扱う施設からまず配備すべきだ。科学技術振興目的で数千億円ものバラ撒きはしても、命と健康に直結する問題に対処できないとしたら税金を徴収する資格はない。

日本とチェルノブイリのセシウム137規制値比較表 (Bq/1kg)

品目	チェルノブイリ原発事故後の暫定規制値	1999年のベラルーシの規制値	日本の暫定規制値
飲料水	370	18.5	200
牛乳	370~3700	100	200
乳製品	3700~18500	不明	200
卵	37000	不明	500
野菜・果物	3700	40~100	500
穀類	370	40	500
魚	3700	150	500
肉	3700	180~500	500

チェルノブイリ原発事故直後の暫定規制値、チェルノブイリ原発事故から13年後の1999年に設けられたベラルーシ共和国の規制値、東日本大震災後の日本の暫定規制値を比較した表。それぞれ、原子力安全委員会、2005年に行なわれたチェルノブイリフォーラムの報告書、厚生労働省の数値を参考にしている。

## 泊原発周辺地域、農産物・海産物からセシウム検出！

8月4日、北海道原子力環境センターは、7月1日検査で神恵内地区の農産物(いちご)から放射性セシウムを、6月13日検査で岩内前面海域の海産物(ほたて)から放射性銀 Ag-110m をそれぞれ検出したと発表した。これらの放射性物質は「泊原発に起因するものではない」とのこと。では、どこからか？ 福島第1原発事故の放射能以外には考えられないということになる。以下、北海道原子力環境センターホームページより

### 泊発電所周辺地域における放射性物質の検出について 平成23年 8月 4日 16:00

～ 大気中浮遊じん、降下物、農畜産物(いちご)及び海産物(ほたて)～

北海道及び北海道電力(株)においては、「泊発電所周辺の安全確保及び環境保全に関する協定」に基づき泊発電所周辺地域の環境放射線監視を実施しており、大気中浮遊じん(6月採取分)、降下物(6月採取分)及びいちごから放射性セシウム(セシウム 134、セシウム 137)が、また、ほたてから放射性銀(銀 110m)が別表のとおり検出されましたので、お知らせします。

今回の検出について、国(泊原子力保安検査官事務所)においては、泊発電所については日々の保安調査(泊発電所内の巡視点検や運転パラメータの確認など)により正常に運転されていることを確認していることから、**泊発電所に起因するものではないと判断しております。**

なお、**検出された濃度は微量であり、環境や健康への影響はありません。**

いちごから検出された最大の放射性セシウム濃度を食品衛生法に基づく暫定規制値(野菜類:500Bq/kg)と比較すると、**約 2,200 分の1以下の値となっております。**……

表2 農畜産物(いちご)の測定結果 【Bq/kg 生】

実施機関	採取年月日	採取場所	Cs 134濃度 (検出下限)	Cs 137濃度 (検出下限)
北海道	H23.6.21	南幌似地区	不検出 (0.013)	不検出 (0.011)
	H23.7. 1	神恵内地区	0.10 (0.0092)	0.12 (0.0096)
過去の測定値の範囲 (H3. 4~H23. 3)			不検出	不検出 ~0.019

表3 海産物(ほたて)の測定結果 【Bq/kg 生】

実施機関	採取年月日	採取場所	Ag 110m濃度 (検出下限)
北海道	H23.6.13	岩内前面海域	0.33 (0.045)
過去の測定値の範囲 (H3. 4~H23. 3)			不検出

「規制値」という名の数字のマジックにだまされてはけない。‘あの’ **アメリカでさえ基準値は0.11Bq/kg** となっている。「日米安保」に基づいて換算すると、いちご(0.1+0.12)/0.11≒2.0倍 ⇒ **基準値の2倍を測定** 原爆・米軍基地・原発・・・押し付けられた屈辱の歴史。おまけに**米国より4500倍も高い「基準値」**。独立国家と呼べるのだろうか？ ‘風評被害?’を懸念してか道内マスコミもこの件については静かなままだ……………。